

脂質異常症に対する機能性食品の科学的評価

志賀 剛

東京女子医科大学循環器内科

食品の成分には健康維持・増進・回復に役立つものが多く含まれていることから、これらの効果を期待できる食品成分を含む機能性食品の開発が行われている。近年、話題となっているメタボリックシンドロームを始め脂質異常症の発症には日常の食生活、食習慣が大きく関与していることがよく知られている。脂質異常症はわが国における主たる死因である心血管病発症の危険因子のひとつであり、特定健診の評価項目にもなっている。心血管病発症の予防には生活習慣の是正を含めた健康維持・管理がキーとなり、そのなかで機能性食品のもつ役割は大きくなってくると考えられる。しかし、機能性食品の役割を広く認識してもらうにはその効果や安全性を含めた医学的妥当性を示すことが課題であり、客観的な科学的評価方法が必要であろう。われわれは低 HDL 血症を有する脂質異常症例 30 例に対し、機能性食品であるリカメンあるいはプラセボを無作為に割り付け、HDL 変化率を主要評価項目として前向き臨床試験を行っている。この試験を例に機能性食品の科学的評価法について考えてみたい。